

# 地震に負けず校内相撲

## 熱闘で住民励ます

### 19日 飯田小で4年ぶり

珠洲市飯田小の伝統の校内相撲大会（北國新聞社後援）が19日、4年ぶりに行われる。震度6強の地震に見舞われたものの、同校の土俵に被害はなく、地震に負けない元気な子どもたちの姿で住民を励まそうと実施を決めた。12日は土俵の俵が取り換えられ、児童は早速、飯田相撲教室のコーチ青木英樹さん（50）の指導を受けながら稽古に励んだ。

【1面に本記】

今回で45回目となる大会は約50年前に始まり、毎年5月に全校児童が参加して行われる。白熱の取組で観覧に訪れる多くの住民を沸かせる。コロナが落ち着き、大会準備を進めていたところ、5日に震度6強の地震が発生。グラウンドにひびが入る被害があったものの、土俵は無事だった。安全に取組ができることに加え、元



気な姿を見たいと言っ住民の声もあり、予定通り開催することにした。

俵の入れ替えは、高校相撲金沢大会（北國新聞社主催）など県内各地の大会や相撲場で土俵作りに携わる稲井信男さん（75）に能登町新保Ⅱらが進めた。直径4・55メートルの土俵周りの古い俵を取り外し、長さ64メートルの新しい俵を24個詰め、ハンマーでたたいて固めた。

稽古には1〜4年生約40人が臨み、しこや股割りに取り組んだ。当日は全校児童76人が参加する。21日の高校相撲金沢大会で審判を務める青木さんは「子どもたちには相撲の楽しさを知ってもらい、元気な姿を住民に見せてほしい」と話した。四十住基子校長は「子どもたちには地震に負けず、頑張ってほしい」と述べた。

土俵の俵を入れ替える稲井さん（左）  
― 珠洲市飯田小

